

基本理念
[目指す姿]

持続可能な魅力あふれる稼げる水産業へ

- ①天然資源の持続的な利用、収益性の高い漁業経営体・就業者の育成等により、“変化に強い持続可能な水産業”
- ②賑わいを創出する海業や漁港機能の強化により、“魅力あふれる漁村コミュニティ”
- ③新たな流通体制の構築、ふくいの魚ファンづくりにより、“地魚の魅力発信と販売促進”

総合指標
基準R5→目標R11

- 1: ・漁業産出額 96億円 → 105億円 ・養殖産出額 10億円 → 15億円 ・新規就業者数 ー → 100人 ・定置網1経営体の平均漁業産出額 1.1億円 → 1.2億円
- 2: ・「海業」実施数 ー → 10件 ・新たな漁港施設の整備数 ー → 3件
- 3: ・ICT・AIなど先端技術の導入数 ー → 30件 ・「ふくいの魚」ブランド認知度 53% → 70%

漁業経営基盤の強化

1 変化に強い持続可能な水産業へステップアップ

漁獲量が安定!

(1) 天然資源の持続的な利用の推進

- DXによる資源管理の高度化
 - 越前がにのデジタル操業日誌によるリアルタイム漁獲管理
 - 越前がにに漁獲管理手法をふくい甘えび、越前がれい等へ応用
- 環境変動に対応した持続的利用可能な漁場づくり
 - 海底耕耘と魚礁・保護礁による豊かな漁場造成と資源の育成
 - 漁業者ニーズや効果の高い魚種の種苗放流による資源の添加
 - 環境変化の可視化による藻場の保全・創造

養殖ビジネスの拡大!

(2) 養殖業の成長産業化と新規参入の促進

- ICT・AIなど先端技術を活用した養殖生産モデルの構築
 - スマート水産技術による生産管理の効率化
- かつみ水産ベースにおける最先端技術の開発・導入
 - 産学官連携による新魚種・養殖技術の開発・実証 (環境変化に対応した新たな養殖種苗の開発、陸上養殖技術の開発・実証等)
- 新たな養殖場の整備による生産拡大や新規参入の促進
 - 企業の参入による大規模化
 - 個人経営体から集落経営体への転換
 - 陸上や海面の養殖場の整備による新規参入の促進

収益の増加!

(3) 新たな担い手の確保・育成

- 経営感覚に優れた水産スペシャリストの育成
 - 県立大学や漁協と連携した水産技術者の育成
- 女性や若者などへの魅力発信と活躍できる就労環境づくり
 - 女性や若者に向けた魅力発信
 - 女性や若者が働きやすい労働環境の整備
- 半漁半Xなど多様なライフスタイルを実現
 - 多様な人材の確保・育成
 - 新規就業サポートの充実

漁業参入できる環境
新規就業の促進!

(4) 収益性の高い漁業経営体の育成

- 経済事業の多角化等による漁協組織の経営力向上
 - 海業や民間連携など新たな事業展開
 - 経営基盤強化のための漁協合併の検討
- 共同操業や法人化等による定置網漁業経営体の収益力強化
 - 共同操業や経営統合による複数漁場管理
 - 操業体系の見直しによる省人・省力化
 - スマート水産技術による操業の効率化
 - 法人化による経営基盤の強化
- 経営マネジメントの導入による漁業経営体の安定的な事業運営
 - 水産ビジネスのプランニングを支援
 - 漁船・機器の導入を支援

漁業外収益の増加!
儲かる経営体へ
経営改革!

地域活性化の強化 (漁業以外の収入源)

2 魅力あふれる漁村コミュニティづくり

(1) 賑わいを創出する「海業」の推進

- 釣りや加工など海業の推進
 - 漁家民宿を拠点としたブルー・ツーリズムの開発・磨き上げ
 - 漁港を有効活用した賑わい・交流の場づくり
- 川魚(ウナギ・アユ等)を活用した川と湖の賑わいづくり
 - 地域の総意による川魚の生息環境の保全・再生
- 次世代に向けた水産業の魅力向上
 - 全国豊かな海づくり大会を誘致

新たなビジネスの創出!
防災・流通機能の向上!

(2) 気候変動や災害リスクをふまえた漁港機能の強化

- 産地市場の集約化や衛生管理の高度化
 - 各地域の実態にあわせた市場の統合整備を推進
 - 食の安全への消費者ニーズに対応した衛生管理対策の推進
 - 荷さばき所の適切な維持管理、効果的な長寿命化対策
- 岸壁の耐震化など災害に強い漁港づくり
 - 災害発生時における水産業の早期回復体制の構築
 - 嶺南地域の漁港機能の強化(耐震化)を検討
 - 気候変動による海面上昇などの影響をふまえた設計条件の見直し
- 持続可能なインフラ管理
 - 事後保全型の老朽化対策から予防保全型の老朽化対策に転換

稼げる水産業
好循環

市場開拓とブランド化の強化

3 地魚の魅力発信と販売促進

ブランド価値・認知度の向上!
漁村交流人口の増加!

(1) 販路拡大のための新たな流通体制の構築

- 北陸新幹線など多様な交通網を活用した流通体制の構築
 - 新幹線輸送を活用した首都圏への高速流通の拡大
 - 新たな広域道路網を活用した中京圏への流通の強化
- 生産～販売をつなぐ水産バリューチェーンの構築
 - 生産、加工、流通・販売が連携した商品開発
 - 長期保存が可能な低温技術の活用による安定供給
- ICT・AIなど先端技術を活用した新マーケットの創出
 - 流通・販売関係者への漁獲物情報共有システムの構築

(2) 需要に応じた販売戦略による「ふくいの魚」ファンづくり

- 事業者と連動した魅力発信による魚にふれる機会の増加
 - PRイベントやフェアにより「ふくいの魚」認知度の向上
 - 県内消費者への「ふくいの魚」購入の需要創出
- 加工品開発による魚料理のオールラウンダー化
 - 「ふくいの魚」の供給拡大・品揃えの充実
 - 「ふくいの魚」を知って、見て、食べてもらう機会の創出
 - 「ふくいの魚」を使ったお土産の商品化
- 「極」ブランドを核とした「ふくいの魚」まるごとブランド化
 - ブランド・アイデンティティの確立
 - 県内外での「ふくいの魚」取扱店の増加